

2022. **7**
No. **216**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第67回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	耐久消費財の購入状況		4
3	外食		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		8
6	夏季ボーナス		9
7	お中元		11
8	夏休みの過ごし方		12
(特別調査) 新型コロナ・物価上昇関連			 13



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が10.6%、「悪くなった」が24.9%、「変わらない」が64.5%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△14.3。物価上昇により家計の負担感が増しており、暮らし向きの改善を実感するには至っていない。
- 家計上の悩みは、「物価上昇」が1位となり、以下、「収入の伸び悩み」、「税金負担増」の順。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「スマートフォン」、「パソコン」、「ETC」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「パソコン」が最も多く、以下、「スマートフォン」、「4K・8Kテレビ」の順。

3. 外 食

- 外食は、毎月1回以上の利用が63.7%で、昨夏（62.7%）と比較すると1.0ポイントとわずかながら上昇。
- よく利用する店舗は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司」、「中華料理・ラーメン店」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は534万円で、昨夏と比べて36万円増加。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は30.9%で、平均借入額は754万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、「減りそう」が「増えそう」を上回った。雇用・所得環境の改善を背景に勤労者のボーナスに対する厳しい見方が緩和。
- 平均手取り予想額は36万3千円で昨夏と比べて3万円減少。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「ローン返済」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 28.3%。
贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 2.8 件と昨夏と比べて 0.1 件増加。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が最多。平均単価は 4,027 円 (昨夏 3,881 円)、平均予算総額は 11,276 円 (同 10,478 円) と、ともに昨夏に比べて増加。
- 贈りたい商品は「ビール」(含むビール券) が最多で、以下、「お菓子」、「ハム」、「直送生鮮品」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「アウトドア」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。
- 夏休みの過ごし方について、「予定なし」と回答された方のうち 36.2%は新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答。一方、影響がなかったとの回答は 40.1%。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 498 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2022 年 6 月上旬

(特別調査) 新型コロナ・物価上昇関連

新型コロナウイルス感染症関連と物価上昇に対する対策について調査を実施。

- 新型コロナウイルスに対する不安の程度については、「とても不安に感じている」が 18.5%、「やや不安に感じている」が 49.8%で合計 68.3%。不安に感じる理由としては、1 位が「いつどこで感染するかわからない」(67.9%)、2 位が「いつ感染が収束するかわからない」(44.6%) の順。
- 物価上昇に対し取り組んでいる対策（複数回答）については、「食費の節約」が最多で、以下、「ポイントの活用」、「光熱費の節約」の順。一方、「対策はしていない」は 25.5%。

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	77人	15.5%
	30 代	105	21.1
	40 代	157	31.5
	50 代 以 上	159	31.9
家 族	既 婚	292	58.6
	未 婚	206	41.4
性 別	男 性	307	61.6
	女 性	191	38.4
合 計		498	100.0

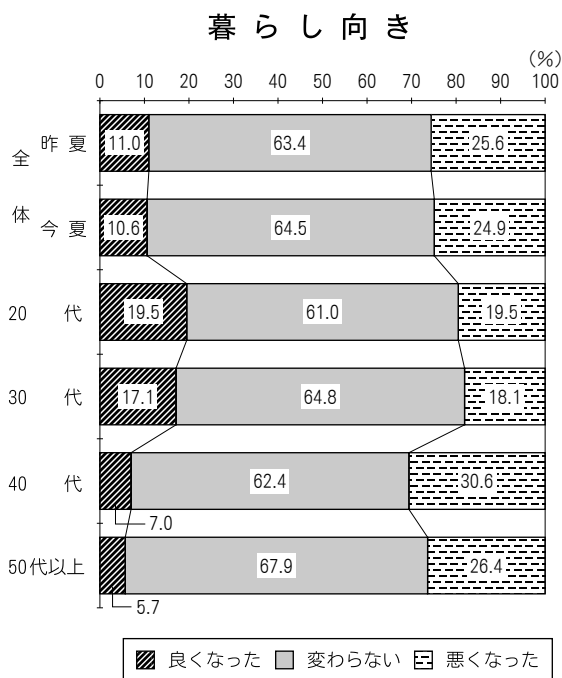
1 家計の状況

生活実感は悪化が続く

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が10.6%、「悪くなった」が24.9%、「変わらない」が64.5%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△14.3となった。

県内景気は緩やかながらも持ち直しており、企業のボーナス支給見通しも改善している。しかしながら、ウクライナ情勢や円安などを背景とした物価上昇により家計の負担感が増していることから、暮らし向きの改善を実感するには至っていない。

年代別にみると、20代、30代は「良くなった」と「悪くなった」の回答比率が拮抗している。一方、40代、50代以上は「良くなった」が各々7.0%、5.7%にとどまったのに対して、「悪くなった」が各々30.6%、26.4%となっており、主に中・高年層で暮らし向きの厳しさを強く感じている様子が窺われる。



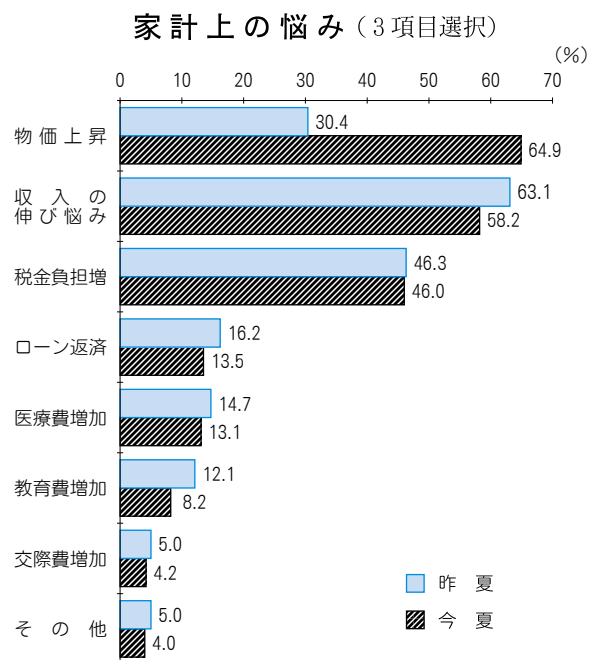
家計上の悩みは「物価上昇」が1位に浮上

家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が最も多く、以下、「収入の伸び悩み」、「税金負担増」と続いた。

上位項目をみると、「物価上昇」（64.9%）が昨夏（30.4%）と比較して34.5ポイントの大幅な上昇となり、2008年冬の調査以来の1位となった。原油などのエネルギー関連や食料品など生活必需品の価格上昇が、家計に影響している様子が窺われる。一方、2位の「収入の伸び悩み」（58.2%）、3位の「税金負担増」（46.0%）は、各々4.9ポイント、0.3ポイント低下した。

上記以外の項目をみると、「教育費増加」、「ローン返済」、「医療費増加」、「交際費増加」のいずれも比率が低下した。

また、年代別にみると、20代では「収入の伸び悩み」が、30代以上では「物価上昇」が1位となった。



2 耐久消費財の購入状況

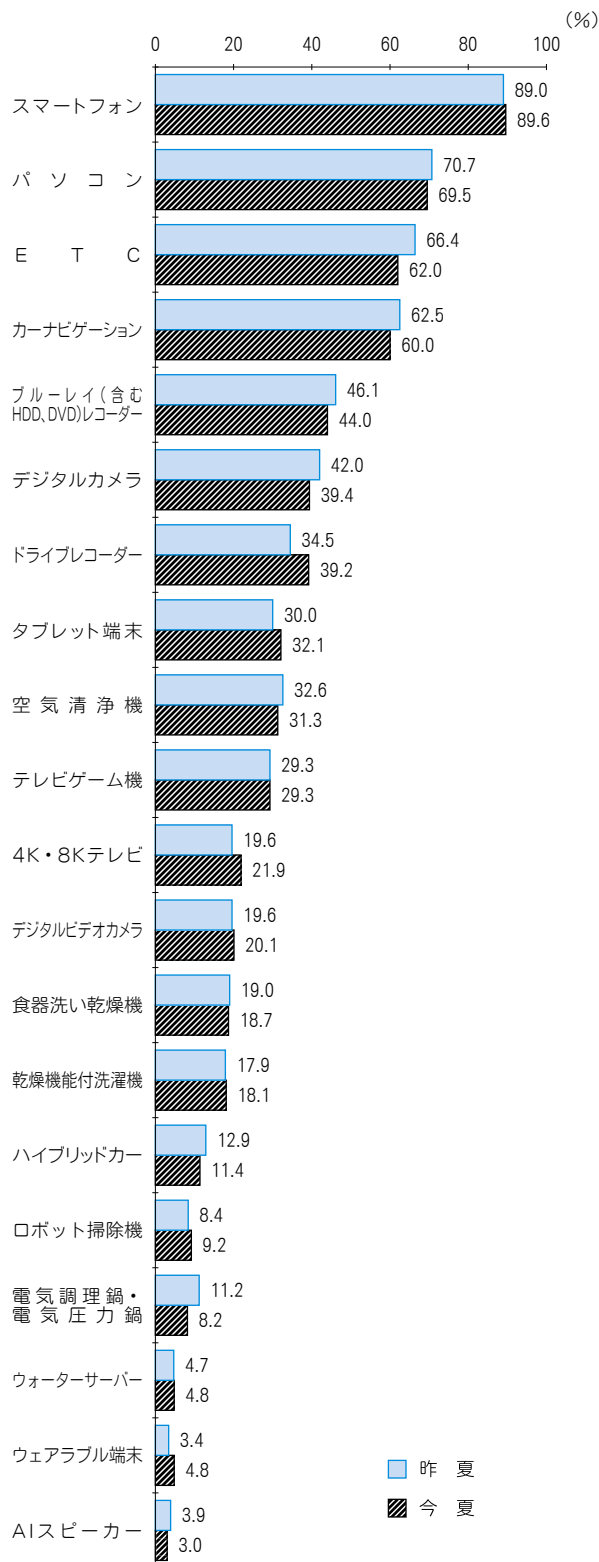
「スマートフォン」の普及率は9割

耐久消費財のうち、主要家電品など20品目についてその普及状況をみると、「スマートフォン」(89.6%)、「パソコン」(69.5%)、「ETC」(62.0%)、「カーナビゲーション」(60.0%)の順となった。

昨夏と比較すると、「ドライブレコーダー」(昨夏比+4.7ポイント)、「4K・8Kテレビ」(同+2.3ポイント)、「タブレット端末」(同+2.1ポイント)などの比率が上昇した一方、「ETC」(同△4.4ポイント)、「電気調理鍋・電気圧力鍋」(同△3.0ポイント)、「デジタルカメラ」(同△2.6ポイント)などの比率は低下した。

年代別の普及率をみると、「スマートフォン」は、各年代とも普及率が85%以上となっている。一方、「パソコン」、「デジタルカメラ」、「デジタルビデオカメラ」の普及率は40代以上と比べて20代、30代の比率が低くなっており、若年層では多機能なスマートフォンに役割を集約している様子が窺われる。また、「ハイブリッドカー」、「ETC」、「カーナビゲーション」、「ドライブレコーダー」など車に関する品目も、40代以上と比べて20代、30代の普及率が低くなっている。

耐久消費財の普及状況



購入店舗は「家電量販店」がトップ

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は「家電量販店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

「家電量販店」の購入比率は昨夏と比べて3.0ポイント低下したものの、2位の「インターネット通販」を16.3ポイント上回っており、耐久消費財が主に家電量販店で購入される状況が続いている。

2位以下をみると、順位は昨夏と変化がみられないが、「インターネット通販」の比率が2.2ポイント上昇した以外は、すべての店舗で比率が低下した。

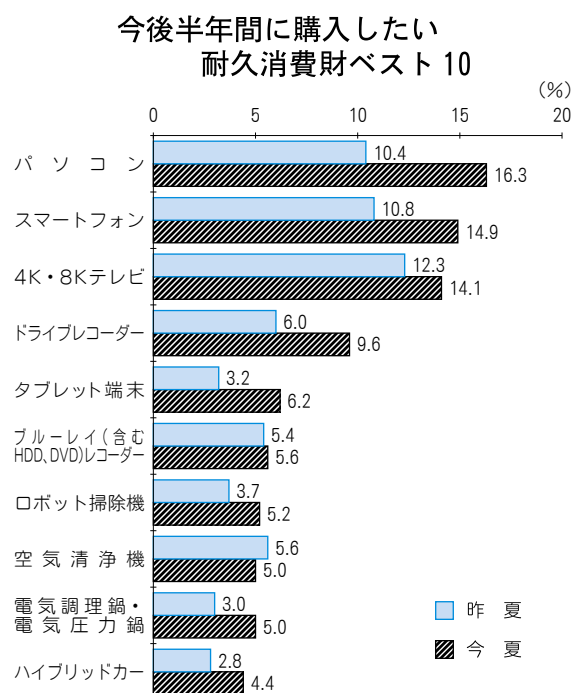
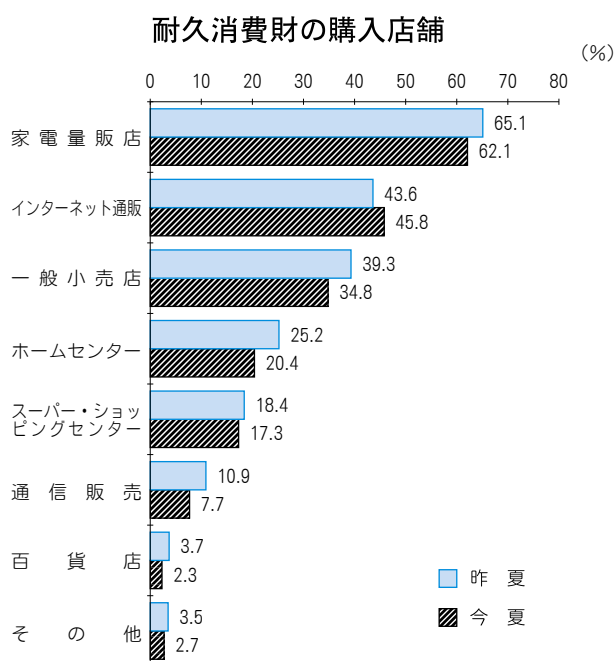
年代別に利用率をみると、「インターネット通販」が40代以上で高くなっている一方、「通信販売」は20代、30代の利用が高くなっている。

購入希望は「パソコン」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「パソコン」（16.3%）で、以下、「スマートフォン」（14.9%）、「4K・8Kテレビ」（14.1%）、「ドライブレコーダー」（9.6%）の順となった。

上位品目の動きをみると、「パソコン」は20代、30代、50代以上で1位となっており、昨夏から5.9ポイント上昇し、3位から1位に順位を上げた。40代で1位となった「スマートフォン」は昨夏から4.1ポイント上昇し、昨夏に続き2位となった。「4K・8Kテレビ」は特に40代以上の購入意欲が高く、昨夏から1.8ポイントの上昇となったものの、順位は1位から3位に後退した。

なお、昨夏と比べて比率が低下した品目は「空気洗浄機」だけで、それ以外の品目はすべて上昇している。足元では、ウィズコロナ／アフターコロナを見据え経済活動も活発化しているが、これまで抑制されていた消費者の購買意欲が高まってきている様子が窺われる。



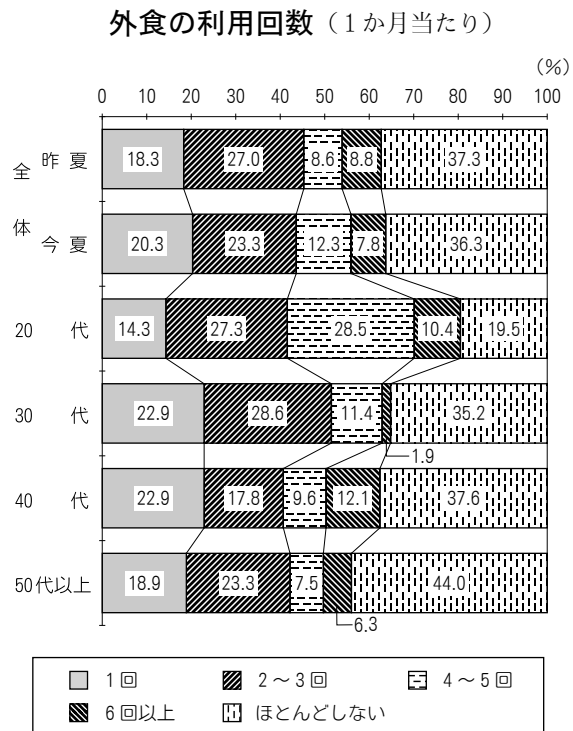
3 外 食

外食の利用状況は「ほとんどしない」が最多

家族での外食の利用状況をみると、全体の63.7%が毎月1回以上利用している。昨夏(62.7%)と比較すると、1.0ポイントとわずかながら上昇したが、コロナ前の水準(2019年夏:82.0%)には及んでいない。

内訳をみると、「ほとんどしない」が36.3%と最多で、以下、「月2～3回」(23.3%)、「月1回」(20.3%)、「4～5回」(12.3%)、「6回以上」(7.8%)の順となっている。

なお、外食の利用状況を年代別にみると、毎月1回以上利用している割合は20代が80.5%、30代が64.8%、40代が62.4%、50代以上が56.0%となっており、年代が高いほど、外食を控える傾向が窺われる。



利用店舗は「ファミリーレストラン」がトップ

よく利用する店舗(3項目以内)は、「ファミリーレストラン」(46.4%)が最多で、以下、「回転寿司」(43.8%)、「中華料理・ラーメン店」(32.1%)、「ファストフード」(31.1%)、「焼肉店」(16.1%)と続いた。1位から5位までは昨夏と変わらず、昨年8位の「居酒屋」(12.9%)が6位に順位を上げ、「カフェ」(12.7%)、「和食専門店」(12.4%)は一つずつ順位を下げた。

年代別にみると、20代、40代では「ファミリーレストラン」が1位で「回転寿司」が2位、30代、50代以上では「回転寿司」が1位で「ファミリーレストラン」が2位となった。3位は20代、30代が「ファストフード」で、40代以上は「中華料理・ラーメン店」となった。

よく利用する外食店舗（3項目選択）

	昨夏	今夏				
		全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	49.8	46.4	53.2	43.8	47.1	44.0
回転寿司	44.2	43.8	39.0	45.7	43.9	44.7
中華料理・ラーメン店	33.3	32.1	32.5	29.5	33.1	32.7
ファストフード	30.5	31.1	33.8	34.3	31.2	27.7
焼肉店	14.8	16.1	18.2	14.3	12.1	20.1
居酒屋	11.2	12.9	13.0	13.3	14.6	10.7
カフェ	12.7	12.7	29.9	12.4	12.7	4.4
和食専門店	12.5	12.4	9.1	8.6	10.8	18.2
洋食専門店	7.5	6.0	11.7	2.9	4.5	6.9
その他	3.9	2.8	0.0	1.9	3.2	4.4

4 貯 蓄

平均貯蓄額は534万円

現在の貯蓄額の平均額は534万円（昨夏498万円）で昨夏と比べて36万円増加した。貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「2,001万円以上」、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「1,001万円～1,500万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が84.3%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」、「投資信託」、「株式」の順となった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は30代以上で8割超となっている。また、「生命保険」、「株式」は年代が高いほど利用率が上昇している。

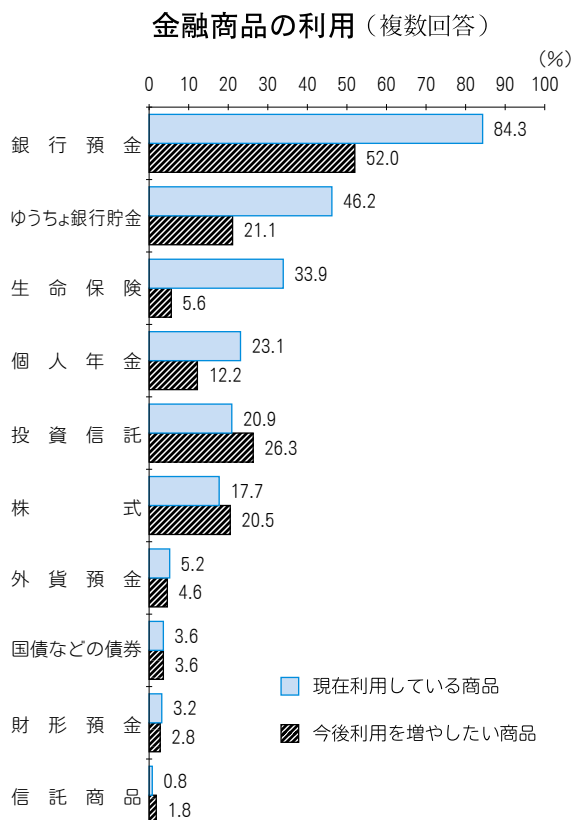
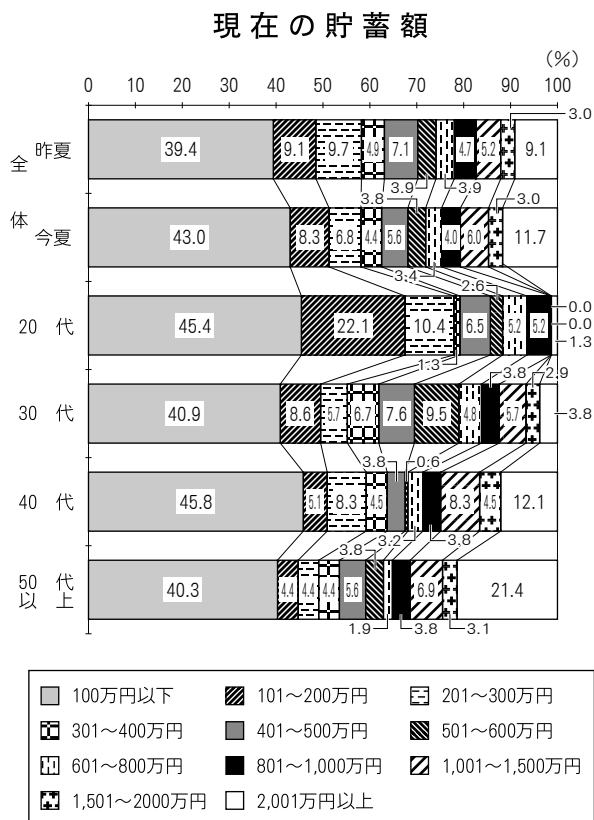
今後増やしたい金融商品も銀行預金が最多

今後増やしたい金融商品（複数回答）は「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」、「個人年金」の順となった。

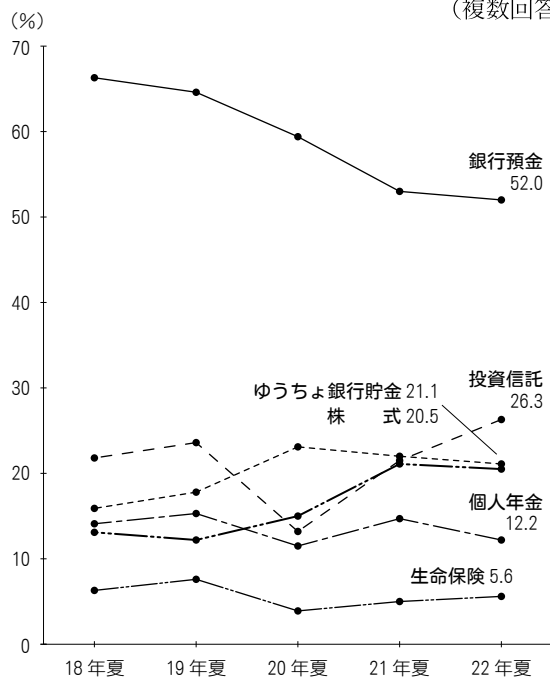
年代別にみると、1位は各年代とも「銀行預金」で、2位は30代が「ゆうちょ銀行貯金」となった以外は「投資信託」となった。

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

年代別にみると、20代が「預け入れ引き出しが自由」、30代以上は「元金の保証があり安心」が1位となった。2位は20代が「元金の保証があり安心」と「利回りが良い」が同率で、30代以上は「利回りが良い」となっている。



今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



貯蓄する際重視する点 (3項目まで選択)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証が安心	52.8	39.0	49.5	51.6	62.9	1
利回りが良い	45.8	39.0	42.9	45.9	50.9	3
預け入れ引き出しが自由	39.6	48.1	38.1	38.2	37.7	2
値上がり期待できる	25.5	29.9	24.8	26.8	22.6	4
利用金融機関が自宅から近い	12.0	14.3	17.1	8.3	11.3	5
利用金融機関のサービスが良い	9.2	16.9	6.7	8.3	8.2	6
利用金融機関が勤務先から近い	3.2	5.2	3.8	3.8	1.3	7
勤務先が利用金融機関と取引している	3.2	3.9	2.9	2.5	3.8	8
利用金融機関に友人、知人がいる	1.8	1.3	2.9	3.2	0.0	9
利用金融機関が集金にきてくれる	0.8	0.0	0.0	2.5	0.0	10
その他	3.6	1.3	3.8	3.2	5.0	—

5 ローン等の利用

平均借入額は754万円

ローン等の利用状況をみると、利用者は30.9%で、平均借入額は754万円となった。

利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」と続いた。昨夏と比較すると、「旅行・レジャー」、「自動車・家電品の購入」、「自分の教育資金」、「子や孫への教育資金」の比率が上昇した一方、「土地・住宅の購入」、「教育資金以外の生活資金」は低下した。

借入先(複数回答)は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」の順となった。昨夏と比較すると、「月賦・クレジット会社」の比率が上昇した一方、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」、「勤務先」、「銀行」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者は、マイホーム需要が高まる40代が最も多く、以下、50代以上、30代、20代の順となっており、平均借入額は、20代が284万円、30代が979万円、40代が814万円、50代以上が671万円となっている。

また、利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。なお、借入先は、20代で「銀行」・「月賦・クレジット会社」(同順位)、30代以上では「銀行」が1位となっている。

6 夏季ボーナス

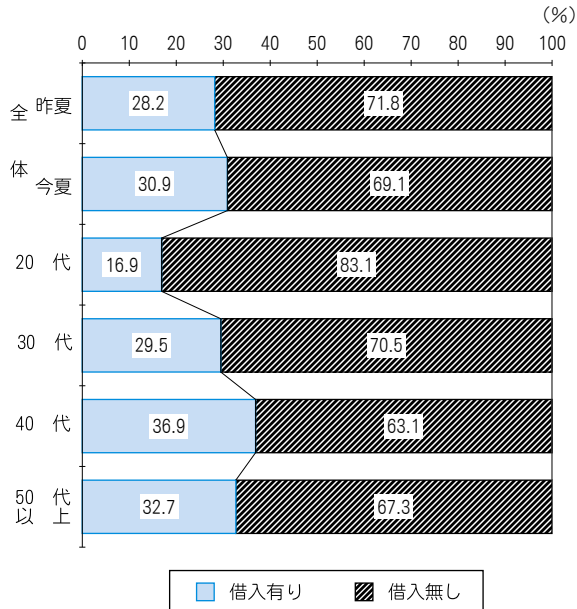
各年代とも増額予想の比率が上昇

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が11.8%、「減りそう」が27.5%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

ただし、両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△15.7と、昨夏の△26.2から10.5ポイント縮小している。新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着くなか、雇用・所得環境の改善を背景に勤労者のボーナスに対する厳しい見方が緩和されてきている。

なお、年代別にみると、各年代とも「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。ただし、昨夏との比較では各年代とも「増えそう」の比率が上昇した反面、「減りそう」の比率が低下し、両比率の差が縮小している。

ローン等の利用状況

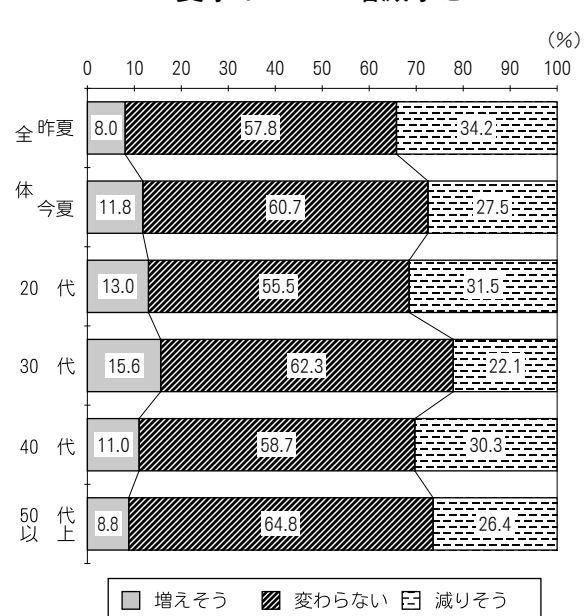


ローン等の借り入れ先・利用目的

(複数回答)

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利用目的	土地・住宅の購入	48.7	15.4	41.9	56.9	51.9
	自動車・家電品の購入	27.9	38.5	22.6	25.9	30.8
	教育資金以外の生活資金	11.7	7.7	16.1	8.6	13.5
	旅行・レジャー	9.7	7.7	12.9	12.1	5.8
	子や孫への教育資金	5.8	7.7	3.2	6.9	5.8
	自分の教育資金	5.8	15.4	16.1	3.4	0.0
	その他	9.7	15.4	16.1	10.3	3.8
借り入れ先	銀行	61.7	38.5	48.4	70.7	65.4
	月賦・クレジット会社	24.7	38.5	25.8	19.0	26.9
	銀行以外の金融機関	11.7	23.1	19.4	8.6	7.7
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	8.4	0.0	12.9	12.1	3.8
	勤務先	1.9	0.0	9.7	0.0	0.0
	その他	5.2	15.4	9.7	0.0	5.8

夏季ボーナス増減予想

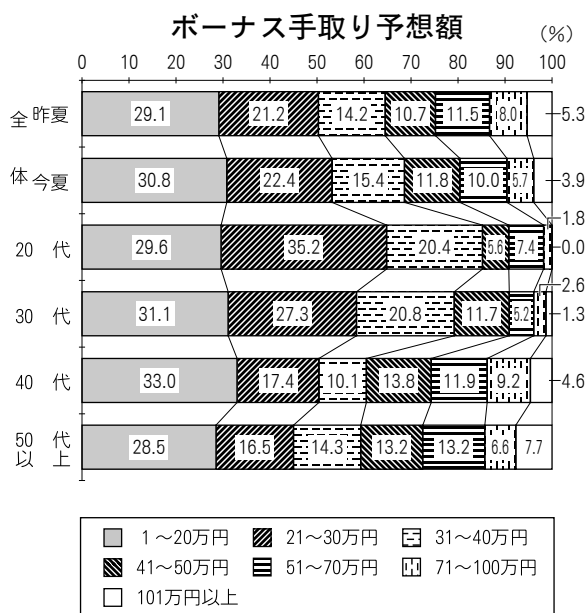


平均手取り予想額は36万3千円

手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

また、平均手取り予想額は36万3千円（昨夏39万3千円）で、昨夏と比べて3万円の減少となった。

年代別にみると、20代が28万9千円、30代が30万8千円、40代が39万3千円、50代以上が41万7千円となっている。



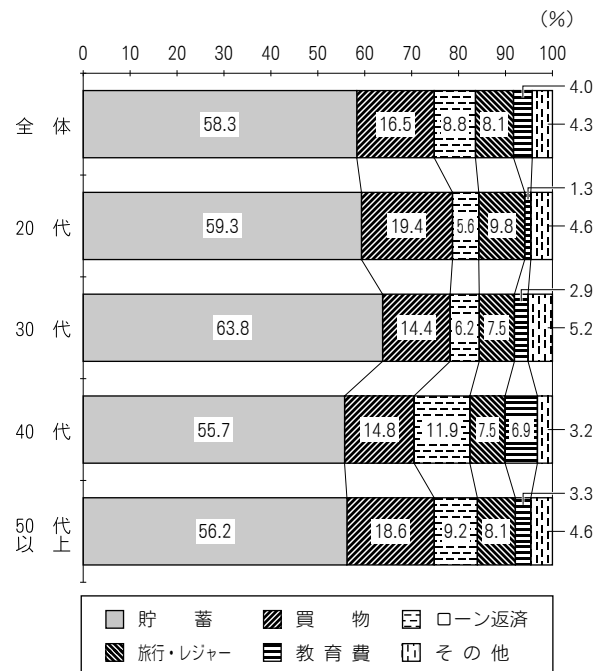
「旅行・レジャー」の配分割合が上昇

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下「買物」、「ローン返済」、「旅行・レジャー」、「教育費」の順となった。

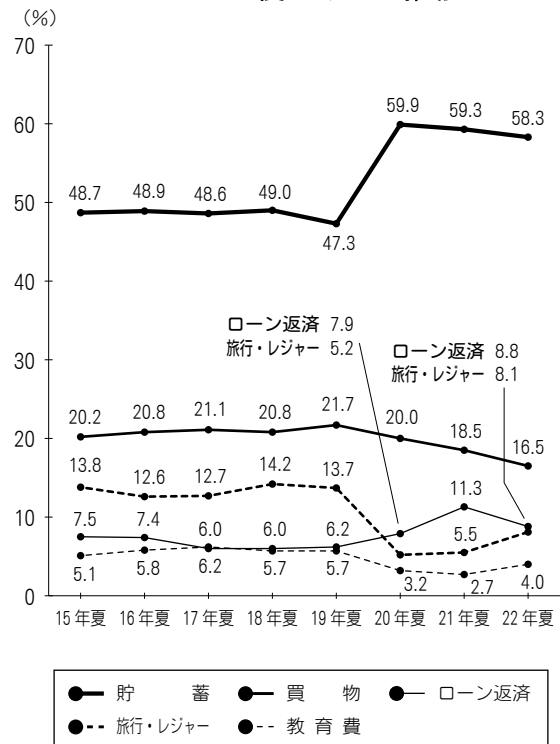
昨夏と比較すると、「旅行・レジャー」、「教育費」の比率が上昇した一方、「ローン返済」、「買物」、「貯蓄」は低下した。経済活動が正常化しつつあるなか、サービス消費が復調傾向にあることから「旅行・レジャー」の配分割合が上昇している様子が窺われる。また、「貯蓄」への配分はやや低下したものの、依然として6割弱を占めている。

年代別にみると、各年代とも1位は「貯蓄」、2位は「買物」となったが、3位は20代、30代が「旅行・レジャー」、40代以上は「ローン返済」となっている。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お中元

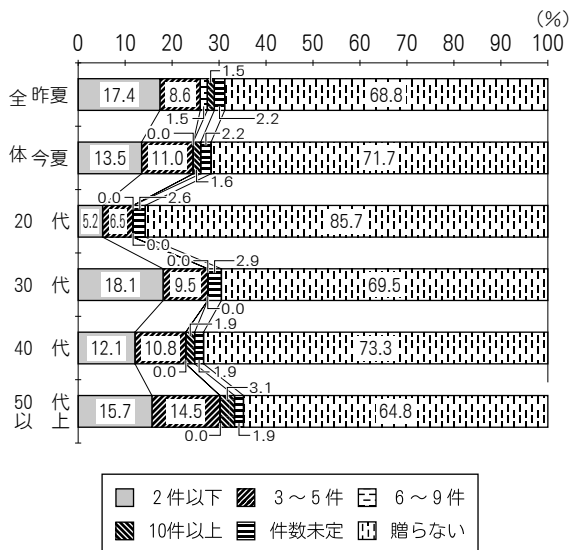
贈る件数は平均 2.8 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 28.3%で、昨夏（31.2%）と比べて 2.9 ポイント低下した。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「件数未定」、「10 件以上」の順となった。平均贈答件数は 2.8 件（昨夏 2.7 件）で昨夏を上回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 14.3%（昨夏比△ 6.7 ポイント）、30 代が 30.5%（同＋ 1.8 ポイント）、40 代が 26.7%（同△ 4.3 ポイント）、50 代以上が 35.2%（同△ 4.2 ポイント）となり、30 代を除くすべての年代で低下した。

お中元を贈る件数



平均単価は 4,027 円、平均予算は 11,276 円

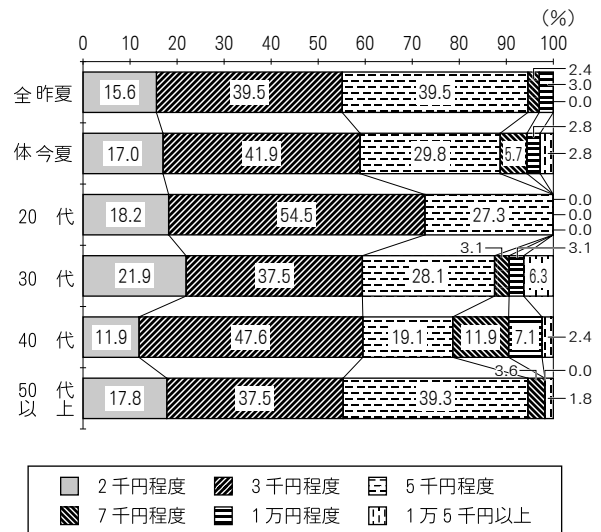
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 41.9%と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 29.8%となっており、この両方で 7 割強を占めた。

また、平均単価は 4,027 円（昨夏 3,881 円）、平均予算総額は 11,276 円（昨夏 10,478 円）となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,167 円、30 代が 4,052 円、40 代が 4,641 円、50 代以上が 3,708 円となっており、平均予算総額は、各々 8,551 円、8,104 円、13,923 円、11,866 円となった。

お中元の相場

（1 件当たり平均単価）



贈りたい商品は「ビール」が最多

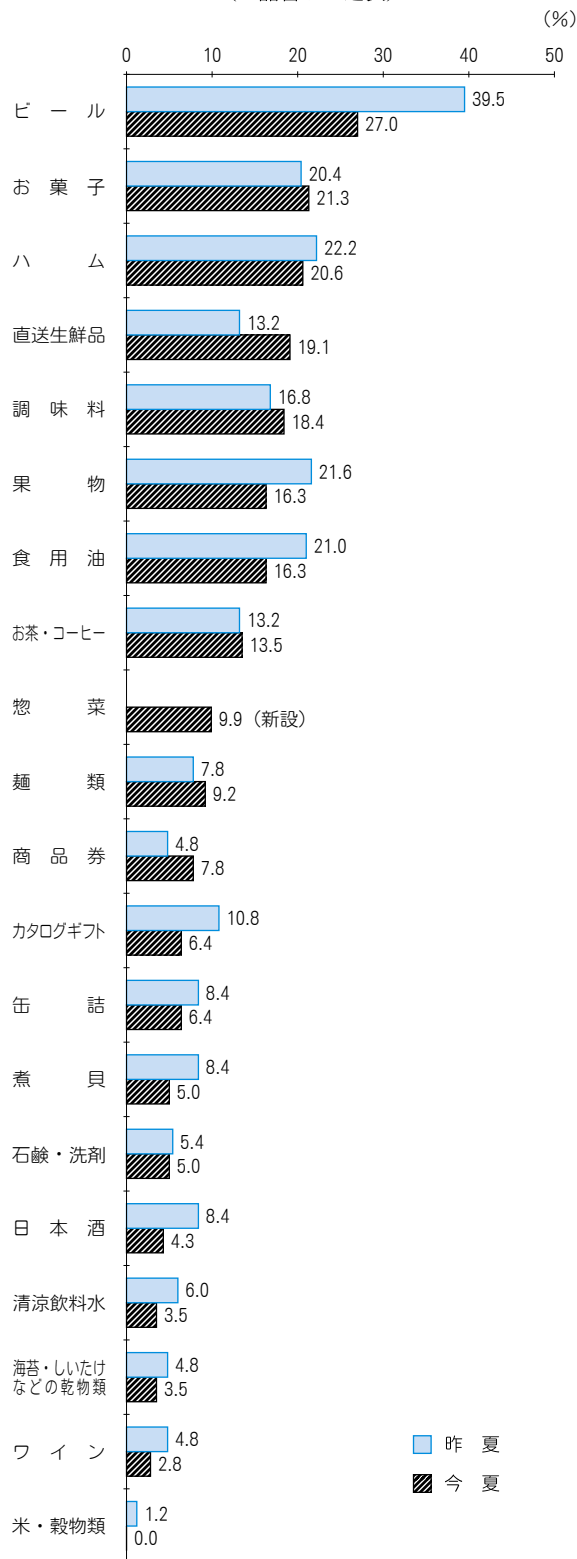
お中元に贈りたい商品（5 品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「お菓子」、「ハム」、「直送生鮮品」、「調味料」の順となった。昨夏と比較すると「ビール」が 12.5 ポイント低下したものの、引き続き 1 位となった。また、昨夏 5 位、7 位の「お菓子」（昨夏比＋ 0.9 ポイント）、「直送生鮮品」（同＋ 5.9 ポイント）が各々 2 位、4 位に順位を上げた一方、昨夏 2 位、3 位、4 位の「ハム」（同△ 1.6 ポイント）、「果物」（同△ 5.3 ポイント）、「食用油」（同△ 4.7 ポイント）が各々 3 位、6 位、7 位に後退した。

今夏お中元に贈りたいもののベスト 5（年代別）

順位	20 代	30 代	40 代	50 代以上
1	ビール（含むビール券）	ハム	ビール（含むビール券）	ビール（含むビール券）
2	ハム	食用油	果物	お菓子 直送生鮮品
3	お菓子 直送生鮮品	ビール（含むビール券）	ハム	お菓子 直送生鮮品
4	調味料	お菓子 調味料	直送生鮮品	果物 お茶・コーヒー
5			食用油	

お中元に贈りたいもの

(5品目まで選択)



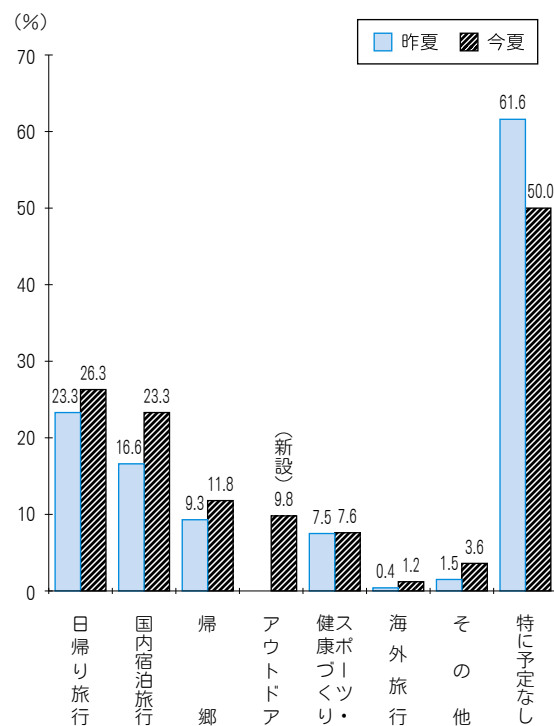
8 夏休みの過ごし方

国内旅行を計画する回答の割合が増加

夏休みの過ごし方（複数回答）は、「特に予定なし」が50.0%と最多を占めた。以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「アウトドア」（新設）、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」と続いた。

昨夏と比較すると、「特に予定なし」（昨夏比

夏休みの過ごし方（複数回答）



夏休みの過ごし方（複数回答）

(%)

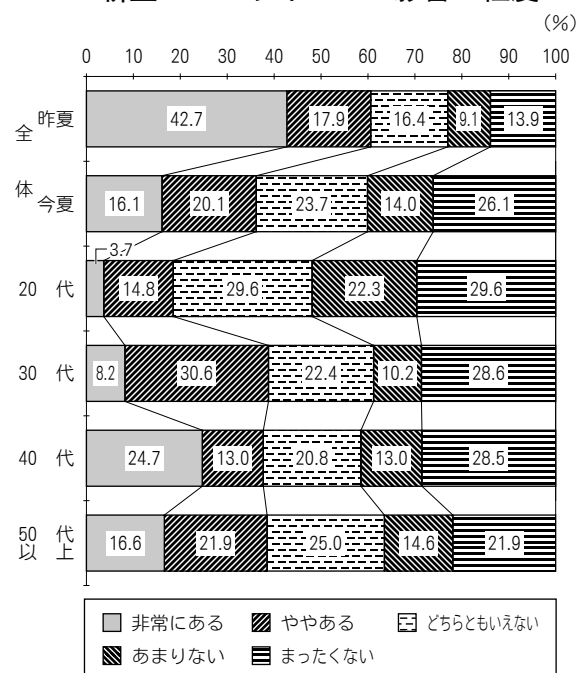
	全体	20代	30代	40代	50代以上
日帰り旅行	26.3	33.8	29.5	26.1	20.8
国内宿泊旅行	23.3	33.8	22.9	22.9	18.9
帰郷	11.8	11.7	18.1	12.1	7.5
アウトドア	9.8	13.0	8.6	12.7	6.3
スポーツ・健康づくり	7.6	3.9	9.5	7.0	8.8
海外旅行	1.2	1.3	1.9	1.3	0.6
その他	3.6	9.1	2.9	3.2	1.9
特に予定なし	50.0	35.1	46.7	49.0	60.4

△11.6ポイント）が低下した一方、「国内宿泊旅行」（同＋6.7ポイント）、「日帰り旅行」（同＋3.0ポイント）が上昇し、国内旅行を計画する回答の割合が増加した。また、「帰郷」（同＋2.5ポイント）、「海外旅行」（同＋0.8ポイント）、「スポーツ・健康づくり」（同＋0.1ポイント）が上昇したほか、今回新設した「アウトドア」も9.8％と一定の支持を集めており、総じて積極的に夏休みの計画を立てようとする動きが窺われた。

「国内旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が51.8％を占め、以下、「2泊」（27.7％）、「3泊」（15.2％）となり、平均宿泊日数は1.8泊であった。

なお、「特に予定なし」と回答された方に対し、外出の予定を立てないことについて、新型コロナウイルス感染拡大の影響の有無を伺ったところ、「非常にある」（16.1％）、「ややある」（20.1％）の合計36.2％（昨夏60.6％）に対し、「まったくない」（26.1％）、「あまりない」（14.0％）の合計は40.1％（昨夏23.0％）となっている。昨夏と比べると、予定を立てないことへの新型コロナウイルス感染症の影響は緩和されている様子が窺われた。

夏の予定を立てないことについて、
新型コロナウイルスの影響の程度



(特別調査) 新型コロナ・物価上昇関連

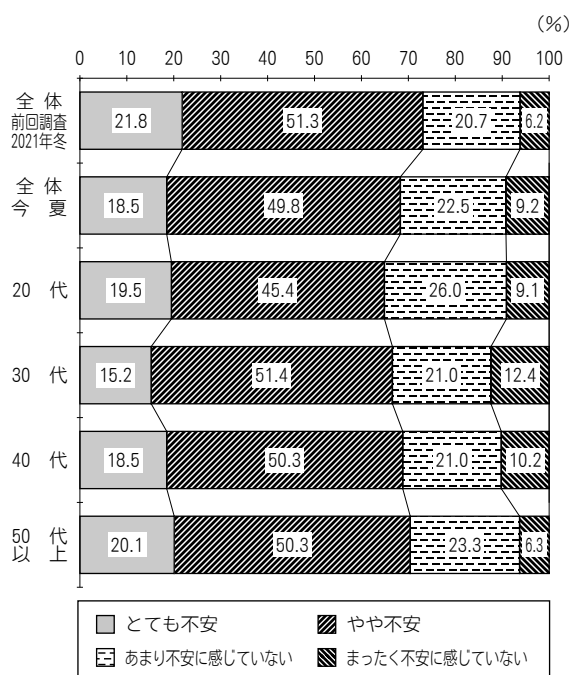
本調査では、新型コロナウイルス感染への不安の程度とその理由、また、物価上昇に対する対策について伺った。

新型コロナウイルスに7割弱の方が不安

新型コロナウイルスに対する不安の程度については、「とても不安に感じている」が18.5％、「やや不安に感じている」が49.8％で合計68.3％となった。前回調査（2021年冬）と比較して、「とても不安に感じている」が3.3ポイント低下した一方、「まったく不安に感じていない」は3.0ポイント上昇した。

不安を感じる理由（複数回答）としては、1位の「いつどこで感染するかわからない」（67.9％）、2位の「いつ感染が収束するかわからない」（44.6％）がほかの回答を引き離した。年代別にみても、各年代とも1位、2位ともに全体と同順位となっている。3位は20代、30代、40代が「家族（子ども）への感染」、50代以上は「感染による重症化、後遺症」となり、前回調査（2021年冬）と同じ順位となった。

新型コロナウイルスに対する不安の程度



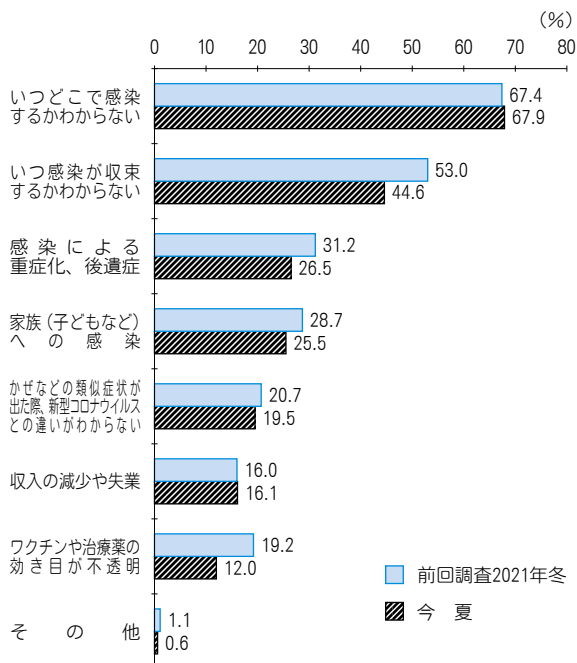
物価上昇への対策は「食費の節約」が1位

物価上昇に対し取り組んでいる対策（複数回答）については、「食費の節約」が45.8%で最多となった。以下、「ポイントの活用」、「光熱費の節約」、「外食の回数を減らす」、「燃料費の節約」の順となった。急激な物価上昇に対し、食料、エネルギー関連の支出を抑える一方、ポイントを活用することで割安に買い物をを行うといった対策に取り組んでいる様子が窺わ

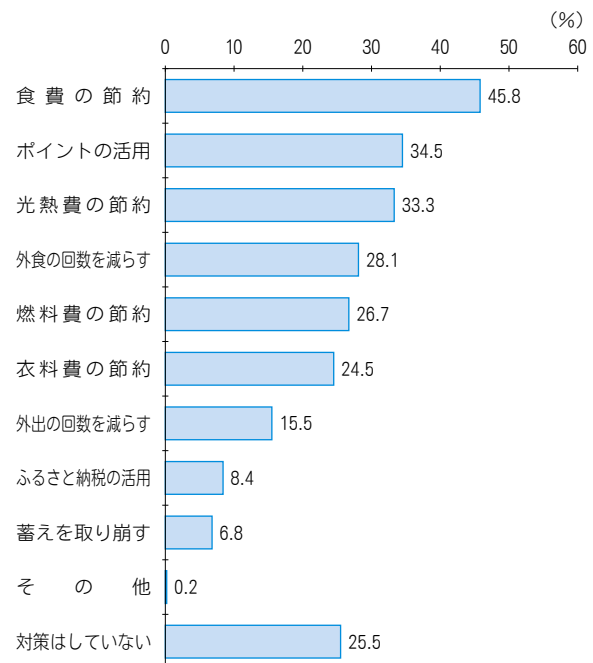
れた。なお、「対策はしていない」は、25.5%と全体の4分の1を占めた。

年代別にみると、1位は20代が「ポイントの活用」で、30代以上は「食費の節約」となっている。2位は20代が「食費の節約」、30代が「ポイントの活用」、40代以上は「光熱費の節約」となった。

新型コロナウイルスを不安に感じる理由



物価上昇に対し取り組んでいる対策



物価上昇に対し取り組んでいることベスト5（年代別）

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ポイントの活用	食費の節約	食費の節約	食費の節約
2	食費の節約	ポイントの活用	光熱費の節約	光熱費の節約
3	外食の回数を減らす	対策はしていない	ポイントの活用	燃料費の節約
4	光熱費の節約	光熱費の節約	外食の回数を減らす	衣料費の節約
5	対策はしていない	燃料費の節約	燃料費の節約	ポイントの活用

キャッシュレスな毎日を。

お買い物やお金の管理がスムーズに。

山梨中銀 Visa デビット

—マイデビット—

MyDebit

YAMANASHI TARO

GOOD MONTH/年
THRU 月
有効期限 00/00



Let's cashless!

- 現金よりも便利、安心
- アプリで収支が見える
- お買い物のたびにスグに口座から引き落とし
- 国内・海外のVISA加盟店で使える
- お得なキャッシュバック特典付き
- 15 歳以上(中学生を除く)からご利用可能！審査不要！

※初年度年会費は無料です。次年度以降、年会費 1,100 円(税込)が必要となりますが、一定の条件により無料となります。(2020 年 7 月 1 日現在)

Web での
お申し込みは
こちらから



山梨中央銀行

VISA